

特定個人情報保護評価書(基礎項目評価書)

評価書番号	評価書名
5	身体障害者手帳の交付に関する事務 基礎項目評価書

個人のプライバシー等の権利利益の保護の宣言

香川県知事は、身体障害者手帳交付事務に係る特定個人情報ファイルを取り扱うにあたり、特定個人情報の不適正な取扱いが個人のプライバシー等の権利利益に影響を及ぼしかねないことを認識し、特定個人情報の漏えいその他の事態を発生させるリスクを軽減させるために適切な措置を講じ、もって個人のプライバシー等の権利利益の保護に取り組んでいることを宣言する。

特記事項	
------	--

評価実施機関名

香川県知事

公表日

令和7年10月3日

I 関連情報

1. 特定個人情報ファイルを取り扱う事務	
①事務の名称	身体障害者手帳の交付に関する事務
②事務の概要	身体障害者福祉法に基づき、身体障害者手帳の交付に関する事務を実施する。 特定個人情報ファイルを使用して実施する具体的な事務は以下のとおり。 1. 新規交付申請に関する事務 2. 再交付申請に関する事務 3. 住所変更等各種届出に関する事務 4. 返還に関する事務
③システムの名称	身体障害者手帳交付システム、中間サーバー、統合宛名システム
2. 特定個人情報ファイル名	
身体障害者手帳交付情報ファイル	
3. 個人番号の利用	
法令上の根拠	・行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（以下「番号法」という。） 第九条第1項 別表の20の項 ・番号法別表の主務省令で定める事務を定める命令（平成26年内閣府・総務省令第5号） 第十一条
4. 情報提供ネットワークシステムによる情報連携	
①実施の有無	<選択肢> 1) 実施する 2) 実施しない 3) 未定 [実施する]
②法令上の根拠	【情報提供ができる根拠規定】 1. 番号法第19条第8号に基づく主務省令第2条の表 14の項、18の項、20の項、25の項、37の項、42の項、48の項、49の項、53の項、75の項、76の項、77の項、80の項、81の項、91の項、92の項、108の項、113の項、124の項、125の項、141の項、144の項、155の項、161の項、163の項 2. 番号法第19条第8号に基づく主務省令 第16条第1号、第2号及び第4号、第20条第1号、第22条第1号、第2号、第4号、第6号及び第8号、第27条第2号、第39条第1号及び第2号、第44条第1号、第50条第4号、第51条第2号及び第7号、第55条第1号、第77条第1号及び第2号、第78条第1号、第79条第2号、第82条第1号及び第3号、第83条第1号、第2号、第4号、第5号、第6号及び第7号、第93条第1号及び第3号、第94条第1号、第110条第2～4号、第115条第1号及び第2号、第126条第1号、第127条第1号、第143号第1号、第2号及び第4号、第146条第1号、第2号、第5号、第6号及び第11号、第157条第5号及び第11号、第163条第1号、第165条第1号
5. 評価実施機関における担当部署	
①部署	健康福祉部障害福祉課
②所属長の役職名	障害福祉課長
6. 他の評価実施機関	

7. 特定個人情報の開示・訂正・利用停止請求	
請求先	香川県健康福祉部障害福祉課 総務・県立施設グループ 〒760-8570 香川県高松市番町四丁目1番10号 TEL:087-832-3291 香川県障害福祉相談所 〒761-8057 香川県高松市田村町1114番地 TEL:087-867-2696 香川県総務部広聴広報課県民室 〒760-8570 香川県高松市番町四丁目1番10号 TEL:087-832-3061 各県民センター
8. 特定個人情報ファイルの取扱いに関する問合せ	
連絡先	香川県健康福祉部障害福祉課 総務・県立施設グループ 〒760-8570 香川県高松市番町四丁目1番10号 TEL:087-832-3291 香川県障害福祉相談所 〒761-8057 香川県高松市田村町1114番地 TEL:087-867-2696
9. 規則第9条第2項の適用 []適用した	
適用した理由	

Ⅱ しきい値判断項目

1. 対象人数		
評価対象の事務の対象人数は何人か	[1万人以上10万人未満]	<選択肢> 1) 1,000人未満(任意実施) 2) 1,000人以上1万人未満 3) 1万人以上10万人未満 4) 10万人以上30万人未満 5) 30万人以上
いつ時点の計数か	令和6年9月1日 時点	
2. 取扱者数		
特定個人情報ファイル取扱者数は500人以上か	[500人未満]	<選択肢> 1) 500人以上 2) 500人未満
いつ時点の計数か	令和6年9月1日 時点	
3. 重大事故		
過去1年以内に、評価実施機関において特定個人情報に関する重大事故が発生したか	[発生なし]	<選択肢> 1) 発生あり 2) 発生なし

Ⅲ しきい値判断結果

しきい値判断結果
基礎項目評価の実施が義務付けられる

IV リスク対策

1. 提出する特定個人情報保護評価書の種類		
[基礎項目評価書]		<選択肢> 1) 基礎項目評価書 2) 基礎項目評価書及び重点項目評価書 3) 基礎項目評価書及び全項目評価書 2)又は3)を選択した評価実施機関については、それぞれ重点項目評価書又は全項目評価書において、リスク対策の詳細が記載されている。
2. 特定個人情報の入手(情報提供ネットワークシステムを通じた入手を除く。)		
目的外の入手が行われるリスクへの対策は十分か	[十分である]	<選択肢> 1) 特に力を入れている 2) 十分である 3) 課題が残されている
3. 特定個人情報の使用		
目的を超えた紐付け、事務に必要な情報との紐付けが行われるリスクへの対策は十分か	[十分である]	<選択肢> 1) 特に力を入れている 2) 十分である 3) 課題が残されている
権限のない者(元職員、アクセス権限のない職員等)によって不正に使用されるリスクへの対策は十分か	[十分である]	<選択肢> 1) 特に力を入れている 2) 十分である 3) 課題が残されている
4. 特定個人情報ファイルの取扱いの委託		[☐]委託しない
委託先における不正な使用等のリスクへの対策は十分か	[]	<選択肢> 1) 特に力を入れている 2) 十分である 3) 課題が残されている
5. 特定個人情報の提供・移転(委託や情報提供ネットワークシステムを通じた提供を除く。)		[☐]提供・移転しない
不正な提供・移転が行われるリスクへの対策は十分か	[]	<選択肢> 1) 特に力を入れている 2) 十分である 3) 課題が残されている
6. 情報提供ネットワークシステムとの接続		[☐]接続しない(入手) []接続しない(提供)
目的外の入手が行われるリスクへの対策は十分か	[]	<選択肢> 1) 特に力を入れている 2) 十分である 3) 課題が残されている
不正な提供が行われるリスクへの対策は十分か	[十分である]	<選択肢> 1) 特に力を入れている 2) 十分である 3) 課題が残されている

7. 特定個人情報の保管・消去		
特定個人情報の漏えい・滅失・毀損リスクへの対策は十分か	[十分である]	<選択肢> 1) 特に力を入れている 2) 十分である 3) 課題が残されている
8. 人手を介在させる作業 [] 人手を介在させる作業はない		
人為的ミスが発生するリスクへの対策は十分か	[十分である]	<選択肢> 1) 特に力を入れている 2) 十分である 3) 課題が残されている
判断の根拠	「マイナンバー利用事務におけるマイナンバー登録事務における横断的なガイドライン」の次の留意事項等を遵守している。 ・住基ネット照会によりマイナンバーを取得するのではなく、申請者からマイナンバーの提供を受け、その上で記載されたマイナンバーの真正性確認を行っている。 ・申請者からマイナンバーが得られない場合にのみ行う住基ネット照会は、4情報または住所を含む3情報による照会を原則としている。 ・複数人での確認を行った上で、マイナンバーの紐付けを行い、その記録を残している。 ・更新時には、本人からマイナンバーを取得し、登録されているマイナンバーに誤りがないか、確認している。	
9. 監査		
実施の有無	[☐] 自己点検 [☐] 内部監査 [] 外部監査	
10. 従業者に対する教育・啓発		
従業者に対する教育・啓発	[十分に行っている]	<選択肢> 1) 特に力を入れて行っている 2) 十分に行っている 3) 十分に行っていない
11. 最も優先度が高いと考えられる対策 [] 全項目評価又は重点項目評価を実施する		
最も優先度が高いと考えられる対策	[3) 権限のない者によって不正に使用されるリスクへの対策] <選択肢> 1) 目的外の入手が行われるリスクへの対策 2) 目的を超えた紐付け、事務に必要な情報との紐付けが行われるリスクへの対策 3) 権限のない者によって不正に使用されるリスクへの対策 4) 委託先における不正な使用等のリスクへの対策 5) 不正な提供・移転が行われるリスクへの対策(委託や情報提供ネットワークシステムを通じた提供を除く。) 6) 情報提供ネットワークシステムを通じて目的外の入手が行われるリスクへの対策 7) 情報提供ネットワークシステムを通じて不正な提供が行われるリスクへの対策 8) 特定個人情報の漏えい・滅失・毀損リスクへの対策 9) 従業者に対する教育・啓発	
当該対策は十分か【再掲】	[十分である]	<選択肢> 1) 特に力を入れている 2) 十分である 3) 課題が残されている
判断の根拠	・身体障害者手帳交付システム及び統合宛名システムへのアクセスが可能な職員は、パスワードおよび静脈認証による認証によって限定しており、アクセス可能な職員の名簿を年度ごとに作成することで、アクセス権限の適切な管理を行っている。また、アクセスログを記録し、定期的に分析することで不正なアクセスがないことを確認している。これらの対策を講じていることから、権限のないもの(元職員、アクセス権限のない職員等)により不正に使用されるリスクへの対策は「十分である」と考えられる。	

変更箇所

変更日	項目	変更前の記載	変更後の記載	提出時期	提出時期に係る説明
平成31年1月1日	I 関連情報 5. 評価実施機関における担当部署 ②所属長の役職名	障害福祉課長 久保幸司	障害福祉課長	事後	様式変更による
平成31年1月1日	IVリスク対策	記載なし	IVリスク対策に記載のとおり	事後	様式変更による
令和3年9月1日	I-4-② 法令上の根拠	番号法第19条第7号	番号法第19条第8号	事後	法改正による
令和6年9月1日	I 関連情報 3. 個人番号の利用 「法令上の根拠」	・行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（以下「番号法」という。）第九条第1項 別表第一の11の項 ・番号法別表第一の主務省令で定める命令（平成26年内閣府・総務省令第5号） 第十一条	・行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（以下「番号法」という。）第九条第1項 別表の20の項 ・番号法別表の主務省令で定める事務を定める命令（平成26年内閣府・総務省令第5号） 第十一条	事後	法改正による
令和6年9月1日	I 関連情報 4. 情報提供ネットワークシステムによる情報連携 ②法令上の根拠	【情報提供の根拠】 ○番号法第19条第8号 別表第二 15の項目、16の項、27の項、28の項、31の項、54の項、55の項、56の2の項、57の項、79の項、106の項、116の項 ○番号法別表第二の主務省令で定める事務及び情報を定める命令（平成26年内閣府・総務省令第7号） 第12条第1号及び第3号、第20条第2号及び第6号、第21条第1号～第3号、第22条、第28条、第29条 第1号、第30条第3号、第31条第1号、第2号、第4号～第6号、第42条第1号、第53条第1号～第3号	【情報提供ができる根拠規定】 番号法第19条第8号に基づく主務省令第2条の表の以下の項 14、18、20、25、37、42、48	事後	法改正による
令和6年9月1日	I 関連情報 9. 規則第9条第2項の適用	—	—	事後	様式変更による
令和6年9月1日	II しきい値判断項目 1.対象人数 いつ時点の計数か	令和3年9月1日時点	令和6年9月1日時点	事後	
令和6年9月1日	II しきい値判断項目 2.取扱者数 いつ時点の計数か	令和3年9月1日時点	令和6年9月1日時点	事後	
令和6年9月1日	IV リスク対策 8.人手を介在させる作業	—	IVリスク対策に記載のとおり	事後	様式変更による
令和6年9月1日	IV リスク対策 11.最も優先度が高いと考えられる対策	—	IVリスク対策に記載のとおり	事後	様式変更による
令和7年10月3日	I 関連情報 4. 情報提供ネットワークシステムによる情報連携 ②法令上の根拠	【情報提供ができる根拠規定】 番号法第19条第8号に基づく主務省令第2条の表の以下の項 14、18、20、25、37、42、48	【情報提供ができる根拠規定】 1. 番号法第19条第8号に基づく主務省令第2条の表 14の項、18の項、20の項、25の項、37の項、42の項、48の項、49の項、53の項、75の項、76の項、77の項、80の項、81の項、91の項、92の項、108の項、113の項、124の項、125の項、141の項、144の項、155の項、161の項、163の項 2. 番号法第19条第8号に基づく主務省令第16条第1号、第2号及び第4号、第20条第1号、第22条第1号、第2号、第4号、第6号及び第8号、第27条第2号、第39条第1号及び第2号、第44条第1号、第50条第4号、第51条第2号及び第7号、第55条第1号、第77条第1号及び第2号、第78条第1号、第79条第2号、第82条第1号及び第3号、第83条第1号、第2号、第4号、第5号、第6号及び第7号、第93条第1号及び第3号、第94条第1号、第110条第2～4号、第115条第1号及び第2号、第126条第1号、第127条第1号、第143号第1号、第2号及び第4号、第146条第1号、第2号、第5号、第6号及び第11号、第157条第5号及び第11号、第163条第1号、第165条第1号	事後	定期的見直しによる
令和7年10月3日	IV リスク対策 11.最も優先度が高いと考えられる対策 判断の根拠	・身体障害者手帳交付システム及び統合宛名システムへのアクセスが可能な職員は、パスワードおよび静脈認証による認証によって限定しており、アクセス可能な職員の名簿を年度ごとに作成することで、アクセス権限の適切な管理を行っている。また、アクセスログを記録し、定期的に分析することで不正なアクセスがないことを確認している。これらの対策を講じていることから、権限のないもの（元職員、アクセス権限のない職員等）により不正に使用されるリスクは「十分である」と考えられる。	・身体障害者手帳交付システム及び統合宛名システムへのアクセスが可能な職員は、パスワードおよび静脈認証による認証によって限定しており、アクセス可能な職員の名簿を年度ごとに作成することで、アクセス権限の適切な管理を行っている。また、アクセスログを記録し、定期的に分析することで不正なアクセスがないことを確認している。これらの対策を講じていることから、権限のないもの（元職員、アクセス権限のない職員等）により不正に使用されるリスクへの対策は「十分である」と考えられる。	事後	定期的見直しによる